

震災後の本市の現状と今後のまちづくりについて

～ふるさといわきの力強い復興とその先を見据えて～

1. はじめに

いわき市は、福島県の東南端に位置しており、太平洋に面する温暖な気候に恵まれた、人口約34万人を有する中核市であります。

国宝白水阿弥陀堂をはじめ、日本三古湯に数えられるいわき湯本温泉郷など豊富な地域資源を生かした観光産業が盛んであると同時に、国際貿易港である重要港湾小名浜港や常磐自動車道などの高速交通体系が整備された東北有数の製造品出荷額を誇る工業都市でもあります。

本市は、平成23年3月に発生した東日本大震災により、460名を超える尊い命と貴重な財産を失い、建物被害は9万棟に及ぶなど、甚大な被害が生じました。さらに、福島第一原子力発電所の事故に伴う影響が市民生活の各般にわたる中、双葉郡等から避難を余儀なくされた約2万4千人の方々を受け入れ、避難生活を支えるとともに、福島県浜通り地域における復興事業等の拠点としての役割も果たしてきたところです。

2. 復興の現状と今後の見通し

震災以降は、庁内に被災地の復興や被災者支援を専門的に担う組織を設置するとともに、津波被害が生じた各地域には支援員を配置し、国内外の多くの御支援・御協力に支えられながら、これまで被災された方々の生活再建を最優先に、全力で復旧・復興に取り組んで参りました。

平成27年度までに、公共施設や社会基盤等の復旧事業は完了し、復興事業についても、市内16箇所に1,513戸の災害公営住宅を整備したほか、市内4地区において防災集団移転促進事業を進め、住宅の再建が進んでおります。市内5地区の震災復興土地区画整理事業においても、本年6月まで

に全区画の宅地の引渡しが見込みとなるなど、被災者の生活基盤の再生を着実に進めて参りました。

また、震災後の宅地需要の高まりに対応するため、「市街化調整区域における地区計画制度」を活用し、市街化区域に隣接・近接する8地区の新たな宅地供給に向けた取組みを進めると同時に、市営住宅団地の借地を返還する「市営住宅借地返還促進事業」に積極的に取り組むなど、民間事業者による土地活用の促進を図り、その対応に努めてきたところです。

さらに、今回のような被害を二度と生じさせることがないように、国及び福島県と連携しながら、多重防御の考え方に基づき、災害に強いまちづくりを進めてきたほか、津波避難ビルとしての機能を併せ持つ複合型施設「地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館」や、災害時に支援物資等の保管や仕分け作業などを行う防災活動拠点としての機能を有する屋内多目的広場「いわきグリーンベース」の整備にも取り組んで参りました。

今後においては、被災者の心身のケアと津波被災地域の新しいまちづくりやコミュニティの再生を推し進め、復興が進むにつれて顕在化する新たな課題にも適切に対応しながら、震災前にも増して、安全・安心で快適な生活環境が実現できるよう取り組んで参ります。



写真-1 地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館



写真-2 いわきグリーンベース

いわき市長 **しみず としお** 敏男



3. 災害に備えた取組み

本市は、これまで多くの自治体や関係機関等との間で、災害時における相互応援協定を締結して参りました。また、東日本大震災による甚大な被害を踏まえ、より効果的な災害対応を行うため、国や福島県の計画との整合を図りながら、市地域防災計画の改定にも取り組んで参りました。

また、原発事故後、本市が緊急時防護措置準備区域に含まれたことから、万が一の原子力災害に対応し、市外への広域避難等の応急対策を迅速に実施するため、西方面及び南方面への避難先を確保し、本年1月には茨城県の35市町村と「原子力災害時におけるいわき市民の広域避難に関する協定」を締結したところです。

4. 魅力あふれるまちをつくるため

今後においては、復興事業の進展を踏まえ、復興の総仕上げに向けた施策に取り組むと同時に、復興の先を見据えた魅力あふれるいわきの創生を推進していく必要があると考えております。

特に、魅力あふれる“まち”を実現するため、いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業の推進を目指し、関係機関・団体等の皆様と連携して取り組むとともに、いわき駅北側の磐城平城本丸跡地については、市民の皆様の憩いや交流の場として活用できるよう、(仮称)磐城平城・城跡公園として整備を進め、市街地の賑わい創出を図って参ります。

小名浜港周辺においては、大手スーパーが本年6月にオープンする予定であり、既成市街地を含め、さらなる発展を目指して参ります。

また、将来を見据え、平成11年3月に策定した「都市計画マスタープラン」の見直しや、持続

可能で暮らしやすいまちづくりを進めるため、都市のコンパクト化とネットワーク化の考え方を取り入れた「立地適正化計画」を策定することとしております。



写真-3 磐城平城本丸跡地



写真-4 オープン予定の大手スーパーイメージ

5. おわりに

本年は、5月に、前回のサミットに引き続き、本市において第8回太平洋・島サミットが開催されるほか、6月には第47回全国林業後継者大会、8月には第61回オールスター競輪、そして11月には第10回世界水族館会議など、国内外の大規模な会議やイベントが開催されることから、これらの機会を捉え、これまでの御支援に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、復興が進む本市の姿を広く国内外に発信して参りたいと考えております。

今後においても、真の復興と「住んで良かった、住み続けたい」と思えるまちづくりを進めるため、市民の皆様をはじめ、あらゆる主体と連携し、共に創る「共創のまちづくり」を推し進めながら、「いわき新時代」を切り拓いて参る所存です。



写真-5 太平洋・島サミット (前回)

市民の皆様をはじめ、あらゆる主体と連携し、共に創る「共創のまちづくり」を推し進めながら、「いわき新時代」を切り拓いて参る所存です。